

環境経営レポート

令和6年度

期間：令和6年7月～令和7年6月

令和7年10月10日

株式会社 藤建設

環境経営方針

企業理念

株式会社藤建設は、土木工事等の事業活動を通じて豊かな那賀川の自然環境・地球温暖化を守る為、継続的な環境の負荷の削減に職員をあげて取り組みます。

方針

当社は事業活動が与える環境の負荷を低減するために、次の方針に基づき、環境経営活動を推進して自然環境・地球温暖化等を守ること目指します。

1. 当社の事業活動の環境影響を常に認識し、自主的・積極的に環境への取組と最新機械の利用により省エネ、省力化を推進させます。
2. 当社の事業活動に関する環境法令、徳島県条例を職員あげて厳守します。
3. 当社の事業活動のうち、以下の項目を環境管理重点テーマとして取り組みます。
 - ① 電力使用量の削減
 - ② 燃料使用量の削減
 - ③ 水使用量の削減（総排水量の削減）
 - ④ 一般廃棄物の削減と産業廃棄物のリサイクル率の向上
 - ⑤ グリーン購入の推進
 - ⑥ 環境に配慮した作業方法・排ガス規制適合型機材の購入及びリース品の使用
 - ⑦ 事務所周辺の清掃等社会貢献
 - ⑧ 技術の継承に取組む
4. 一人ひとりが環境負荷低減活動を積極的に実践できるように、この環境方針を全従業員に周知するとともに、環境経営レポート等で社外へも公表します。

上記の方針達成のために、目標を設定し、定期的に見直し環境経営の継続的な改善を推進します。

制定日 平成21年 8月 1日

改訂日 令和 5年 7月 1日

株式会社藤建設

代表取締役 藤坂英樹

EA-01

組織の概要（令和6年7月～令和7年6月）

(1) 事業者名及び代表者名

株式会社藤建設

代表取締役社長 藤坂 英樹

(2) 所在地

本社 〒779-1233

徳島県阿南市那賀川町大京原 818-8

資材置場 本社住所と同じ

(3) 環境経営管理の責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 藤坂 淳子

TEL：0884-22-1803

FAX：0884-22-0388

e-mail：fujiken@mbg.nifty.com

(4) 事業内容

建設業（徳島県知事許可 特-05 207号）

土木工事業 とび・土工工事業 しゅんせつ工事業

舗装工事業 水道施設工事業 解体工事業

(5) 事業の規模

完成工事高 69百万円／令和6年度

従業員 6名

延床面積 事務所60m²、資材置場300m²(倉庫150m²)

認証・登録の対象組織・活動

対象組織 本社・資材置場

事業活動 建設業（土木工事業、解体工事業）

環境経営目標 四国電力排出係数 0.457kg-CO₂/kWh (2024 年度)

項 目	令和 5 年度 令和 5 年 7 月～ 令和 6 年 6 月 実績	令和 6 年度 目標 (0.2%減)	令和 7 年度 目標 (0.3%減)	令和 8 年度 目標 (0.4%減)	令和 9 年度 目標 (0.5%減)
二酸化炭素排出量 (kg-CO ₂ /年/1,000 万円)	63577.7 3739.9	63450.6 3732.4	63387.0 3728.6	63323.4 3723.9	63259.8 3721.2
電力使用量 (kWh)	1072.3	1070.2	1069.1	1068.0	1066.9
燃料 (L/年/1,000 万円)	62505.4 3676.8	62380.4 3669.4	62317.9 3665.8	62255.4 3662.	62192.9 3658.4
廃棄物					
一般廃棄物 (t)	0.13	0.13	0.13	0.13	0.13
産業廃棄物のリサイクル率向上 (%)	100	100	100	100	100
水使用量 (トン)	60	60	60	60	60
グリーン購入 (品)	4	5	5	5	5
環境に配慮した排ガス規制の購入及びリース品の使用 (%)	100	100%	100%	100%	100%

※排出原単位については、工事高 1,000 万円当りに数値に換算する。

※化学物質の使用はありません。

※「産業廃棄物総排出量の削減目標設定については、売上原単位目標の設定を含め、社内検討の結果、建設工事の規模、内容により大幅な変動があることなどから当面、産業廃棄物のリサイクル率の目標設定で対応していく。

※産業廃棄物のリサイクル率向上 (%) = 再資源量/総排出量×100

※環境経営目標は令和 5 年度を基準値に見直しています。

環境目標とその実績(令和 6 年 7 月～令和 7 年 6 月)
四国電力排出係数 0.457kg-CO₂/kWh (2024 年度)

項 目	目 標	実 績	達成率	目標達成状況 (○は達成・△は未達成)
二酸化炭素排出量 (kg-CO ₂ /年/1,000 万円)	63450.6 3732.4	14787.2 2143.0	429% 174%	○ ○
電力使用量 (kWh)	1070.2	1485.0	72%	△
燃料 (L/年/1,000 万円)	62380.4 3669.4	5756.7 834.3	1084% 440%	○ ○
廃棄物				
一般廃棄物 (t)	0.13	0.12	108%	○
産業廃棄物のリサイクル率向上 (%)	100	100	100%	○
水使用量 (トン)	60	60	100%	○
グリーン購入 (品)	5	5	100%	○
環境に配慮した排ガス規制の購入及びリース品の使用 (%)	100%	100%	100%	○

 評価

電気の使用量については、エアコンの室外機付近の清掃・温度計の設置を行ったが、猛暑によりエアコンの使用が増え未達成である。

燃料面では、アイドリングストップ・低排出の重機の使用を行った。年間の排出量、工事 1 千万当りの排出量共に大幅減となった。工事量が少ない上外注工事が多かった事で大幅減となった。現場の特性・工事量において数値の目標値は判断し難い。環境対策としてアイドリングストップや低排出の重機の使用を行う事とする。

排水量においては、事務所内の使用に限定される為、数量が極端にすくないので現状維持に努める。

グリーン購入については積極的に利用し目標達成となった。

環境経営活動計画（R6・7月～R7・6月）

<項目>	<内容>	<実行者>
① 温暖効果ガス発生量の削減（総エネルギー投入量の削減）		
・電気の節約	夏場の冷房温度を下限28℃に設定する 冬場の暖房温度を上限25℃に設定する 照明機器、クーラー、窓の掃除を年1回する 休憩時間は現場事務所及び事務所の消灯をする	・社員全員
・燃料の節約	アイドリングストップを徹底する	・社長以下全員
② 水の節約		
・節水	こまめに蛇口をしめる	・社員全員
③ 一般廃棄物の削減と廃棄物再資源化率の向上		
	コピー用紙の裏面使用 現場で発生する廃棄物を混合廃棄物にしないよう分別を徹底する	・社長以下全員
③ グリーン購入		
	グリーン購入を行う	・社長以下全員
④ 環境に配慮した作業方法・排ガス規制適合型機材の購入及びリース品の使用		
	リース品については、排ガス規制適合品を使用する	・社長以下全員

主要な環境経営活動計画の内容、取組み結果の評価 令和6年度(令和6年7月～令和7年6月)

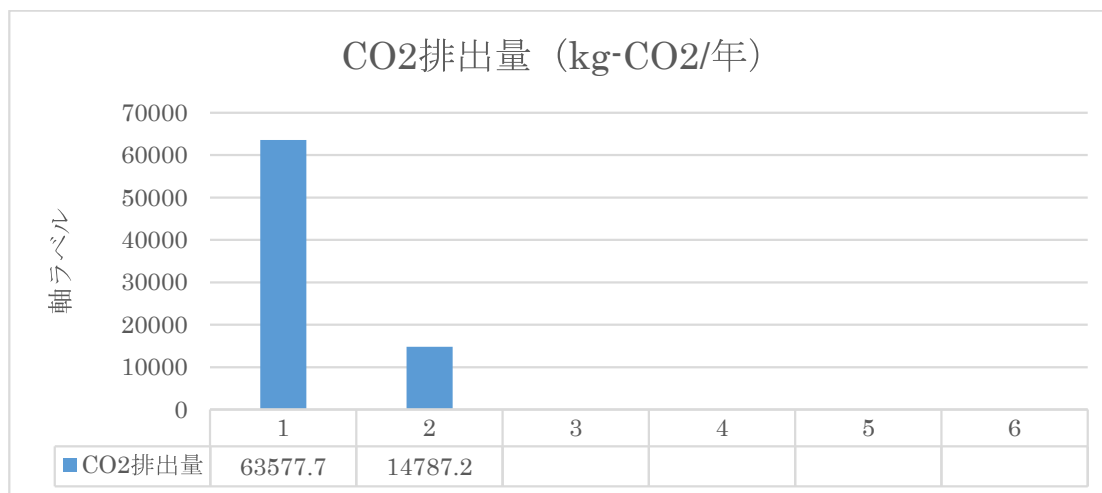
取組み計画	達成状況	評価(結果と次年度の取組)
①電力使用量の削減 ・エアコンの温度設定 夏場は下限 27℃設定 冬場は上限 25℃設定 ・照明機器、クーラー、窓の掃除を年1回 ・休憩時間の消灯	目標：1770.2 (kWh) 実績：1485.0 (kWh) 達成率：72%	温度計を設置し気温が28℃を下回る時は窓を開けたり、室外機の掃除をこまめに行ったが猛暑によるエアコン使用量が増え目標未達成。温度設定は継続して取り組む。
②自動車燃料の削減 ・アイドリングストップ運動 ・	目標：62380.4 実績：5756.7 達成率：1084%	目標達成。重機の使用は外注工事であった為自社での燃料はほとんど発生しなかった。また工事量も少なく現場での燃料の利用が少なかった為の大幅な目標達成となった。目標数量と実績とのかなりの差となったが今後どうなるかは不明であるがアイドリングストップ等の徹底で環境への配慮は続ける事とする。
③節水 ・こまめに蛇口をしめる	目標：60 (L) 実績：60 (L) 達成率：100%	水の使用については、事務所内の使用に限定され、数量が極端に少ない為現状維持に努める。
④一般廃棄物の削減と産業廃棄物のリサイクル率の向上 ・配布資料の削減、裏紙の使用 ・同一種類の物をまとめて処理する	(一般廃棄物) 目標：0.13 実績：0.12 達成率：108 % (産業廃棄物) 目標：100% 実績：100% 達成率：100%	目標を達成 配布資料の削減のため両面コピーを行ったり、裏紙の使用、メール等によるペーパーレスを行い達成。継続して取り組む。 産業廃棄物のリサイクル率も達成。 今後も分別の徹底をしていく。
⑤ グリーン購入の推進	目標：5 実績：5 達成率：100%	事務用品については、カタログ等なるべくリサイクル素材・グリーン購入法の表示のある商品を購入。
⑥ 排ガス規制の購入及びリース品の使用	目標：100% 実績：100% 達成率：100%	排ガス規制の重機の使用は100%である。 リース時には必ず排ガス規制型を用いる。
総括 工事の特性により目標設定が困難であるが、今後も社内一丸となりエコ活動を続ける。		

次年度の取組内容

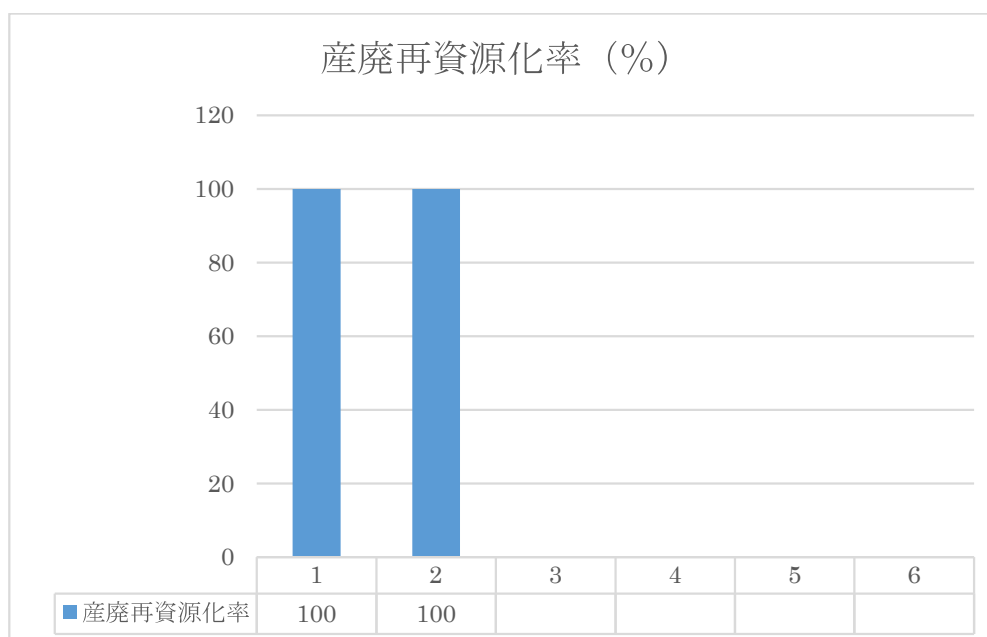
電気使用量の削減については、前年度と同様とする。燃料費の削減については、アイドリングストップ、排ガス規制の重機使用による削減を目標とする。

環境への負荷の推移

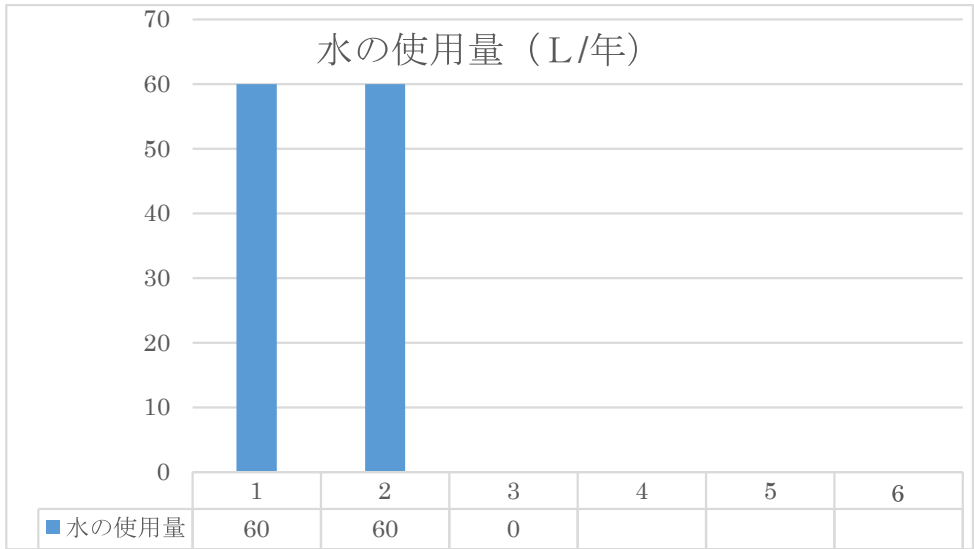
	1	2	3	4	5	6
	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度
	R5.7~R6.6	R6.7~R7.6	R7.7~R8.6	R8.7~R9.6	R9.7~R10.6	R10.7~R11.6
CO2 排出量 (kg-CO2)	63577.7	14787.2	—	—	—	—



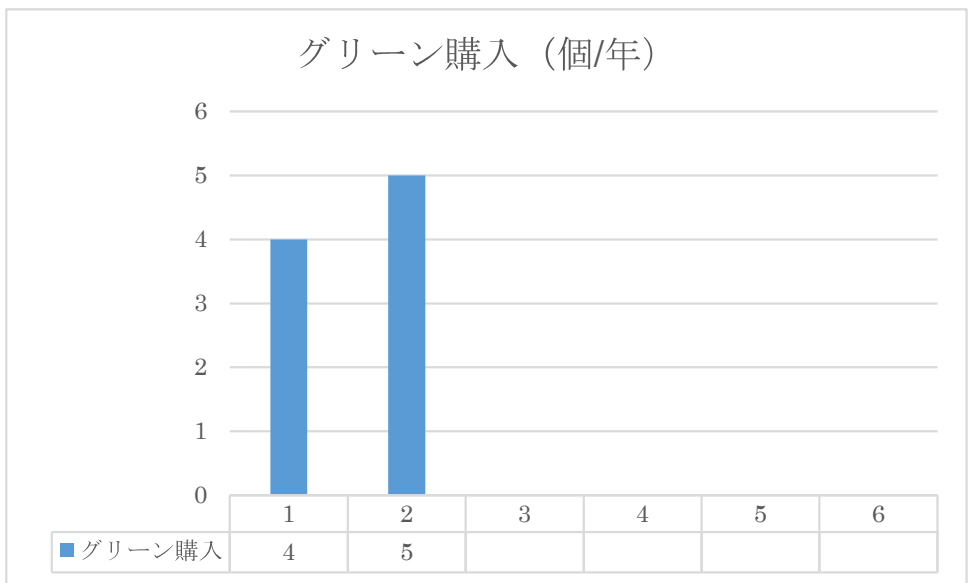
	1	2	3	4	5	6
	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度
	R5.7~R6.6	R6.7~R7.6	R7.7~R8.6	R8.7~R9.6	R9.7~R10.6	R10.7~R11.6
産廃再資源化率 (%)	100	100	—	—	—	—



	1	2	3	4	5	6
	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度	R10 年度
	R5.7~R6.6	R6.7~R7.6	R7.7~R8.6	R8.7~R9.6	R9.7~R10.6	R10.7~R11.6
水の使用量	60	60	—	—	—	—

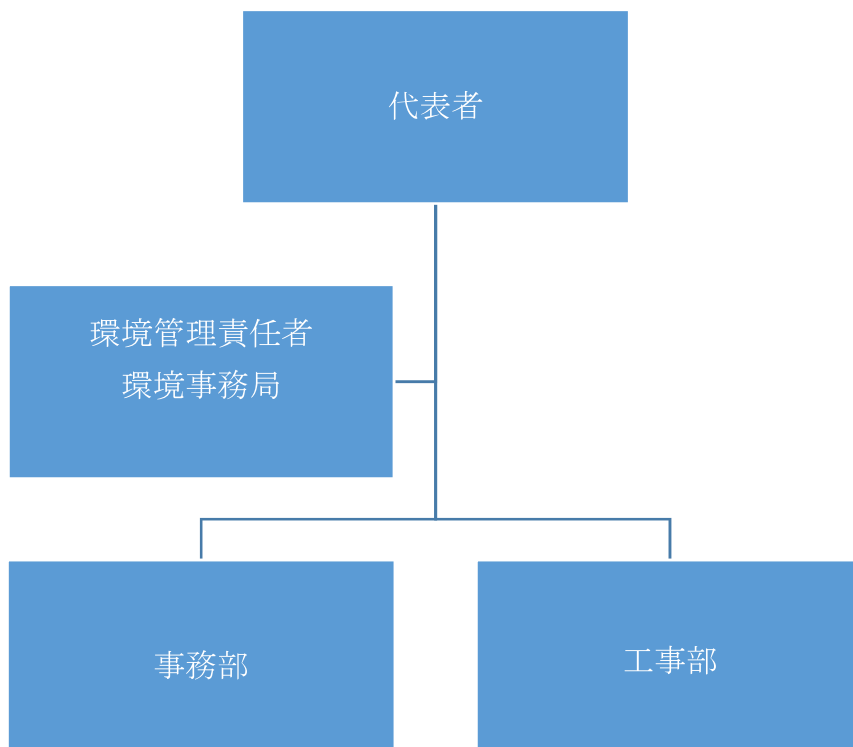


	1	2	3	4	5	6
	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度	R10 年度
	R5.7~R6.6	R6.7~R7.6	R7.7~R8.6	R8.7~R9.6	R9.7~R10.6	R10.7~R11.6
グリーン購入 (個/年)	4	5	—	—	—	—



組織図及び役割・責任・権限

株式会社藤建設 環境活動組織図



	役割・責任・権限
社長	①環境経営に関する総括責任者 ②環境経営システムの実施及び管理に必要な人、設備、費用、時間を用意 ③環境管理責任者を任命 ④環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ⑤環境経営目標、環境経営計画、環境経営レポートの承認 ⑥代表者による全体の評価と見直しを実施
環境管理責任者	①環境経営システムを構築し、実施・管理 ②法規制等の要求事項の登録簿を承認・遵守評価の結果チェック ③環境経営目標、環境経営計画、環境経営レポートの確認 ④環境活動の取組結果を代表者へ報告
環境事務局	①環境管理責任者、EA21推進会議の事務局 ②環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ③環境関連法規等チェックリストの作成・遵守評価の実施 ④環境経営目標・環境経営計画の作成、環境経営レポートの作成・公表 ⑤環境経営計画の実績集計、 ⑥環境関連の外部コミュニケーションの窓口
部門長	② 自部門における環境経営システムの実施・環境方針の周知 ②自部門の関連する環境経営目標及び環境経営計画の実施および達成状況の報告 ③自部門の緊急事態への対応のための手順書作成、テスト・訓練・記録 ④自部門の問題点の発見、予防処置
全従業員	① 環境経営方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 ②決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動への参加

環境関連法規制等の順守状況

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される施設等	順守確認
騒音規制法	住居が集合している箇所及び学校・病院の周辺 騒音防止の方法（工事の目的）	順守
振動規制法	住居が集合している箇所及び学校・病院の周辺 振動防止の方法	順守
廃棄物処理法	委託契約の締結 マニフェストの交付	順守
浄化槽法	単独浄化槽（保守点検・水質検査）	順守
徳島県生活環境保全条例（騒音に関する規制）	重機使用 運搬具の走行	順守
フロン排出抑制法	第1種特定製品の簡易点検、点検表の記録と保管	順守

環境関連法規制等の順守状況の定期評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。
また、関係当局より過去3年間、違反等の指摘はありません。

代表者による全体評価と見直し・指示

近年の気候変動は益々激しさを増し、私達工事現場での仕事をする者にとっては非常に大変である。猛暑・寒暖差・豪雨等想像を遥かに超えるものとなっている。受注工事が少なかったと外注工事が多かったため自社の燃料等が少なくCO₂の削減となったが目標数値の設定に無理があるように思われる。しかし今後も地球に優しいエコ活動を続けて行く事とする。
今のところ環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画、実施体制において変更の必要性はなく、今後もアイドリングストップや産業廃棄物の分別等に力を入れCO₂削減に向けた取組を続けてく事とする。

令和7年10月8日
代表取締役 藤坂英樹